

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりつみやざきおおみやこうとうがっこう				②所在都道府県	宮崎県
27～31	①学校名	宮崎県立宮崎大宮高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科	1048名
文科情報科	82	84	82		248	文科情報科	248名
						合計	1296名
⑥研究開発構想名	「オールみやざき」でグローバル・リーダーを育成する教育プログラムの研究開発						
⑦研究開発の概要	<p>グローバル・リーダーとして身につけさせたい3つの資質・能力として、</p> <p>①「グローバルな社会課題に対する問題意識」（知識・理解）</p> <p>②「国際社会で通用する汎用的能力」（技能・スキル）</p> <p>③「グローバルな社会課題を解決するための行動力・実践力」（態度・姿勢・価値観）</p> <p>を想定し、その育成を行う教育プログラムの研究開発。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>①目的 宮崎県内のグローバルに活躍する大学・企業・行政と連携し、地域にある国際的に関心の高い社会課題を、国内外で研究し解決策を考えることで、郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれるグローバル・リーダーを育成する。</p> <p>②目標 グローバル・リーダーとして身につけさせたい3つの資質・能力を育成することで、「目標設定シート」に挙げた9つの「成果目標（アウトカム）」を達成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>①現状の分析 本校文科情報科はグローバル・リーダー育成を目的に設置された学科だが、「生徒の意識調査」では、グローバルな社会課題に対して興味・関心はあるものの、その課題を身近な地域の事柄と結びつけて考えたり、具体的な提案や行動をしたりしようとする生徒が少なく、また、海外大学へ留学や進学を考えている生徒も少なかった。そこで、国際理解・国際交流を単に「おもしろい、楽しそう」と感じるだけのレベルから、身近な地域の社会課題をグローバルな視点で考え、具体的な提案や行動ができるレベルへ向上させる必要がある。</p> <p>②研究開発の仮説</p> <p>研究開発Ⅰ「グローバルな社会課題に対する問題意識」（知識・理解）の育成 「課題研究」において地域と海外における探究活動を有機的に関連させて繰り返し行う。</p> <p>研究開発Ⅱ「国際社会で通用する汎用的能力」（技能・スキル）の育成 「課題研究以外の取組」において「課題研究」で必要とされる基礎的な思考やスキル（英語力も含む）を習得させる。</p> <p>研究開発Ⅲ「グローバルな社会課題を解決するための行動力・実践力」（態度・姿勢・価値観）の育成 「グローバル・リーダー育成に関する環境整備・教育課程以外の取組」において生徒による主体的・自治的な活動を行う「SGH生徒推進部」を設置する。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「課題研究」の研究成果を動画化し、HPやSNSで発信する。 ・SGH生徒推進部の活動内容を生徒が毎月HPで公開する。 ・SGH事業の活動を「文科情報科通信」において毎月HPで公開する。 ・SGH生徒研究発表会を関係者（企業・行政・大学等）や地域に向けて毎年実施する。 ・SGH研究成果報告会を県内外の関係者（企業・行政・大学等）や教育機関に毎年実施する。 					

⑧
-2
課題研究

(1) 課題研究内容

「郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれる人材」の育成のため、本県の財産や課題を起点としてグローバルな視点で考えるために、「食と健康」をテーマに4つの観点から課題研究を行う。(研究開発が進む過程で改編の可能性あり)

観点	課題研究テーマ例
政策	口蹄疫や鳥インフルエンザ等への防疫
ビジネス	ハラールフードによる産業創造
健康・安全	遺伝子組み換え技術による機能性食品の是非
イノベーション	ミャンマーの「水問題」からイノベーションを学ぶ

(2) 実施方法・検証評価

①実施方法

名称	実施方法
探究Ⅰ	「課題研究の基礎」「グローバルイシュー概論」「グローバル・リーダー論/グローバルイシュー概論・各論」における講義・演習
探究Ⅱ	「食と健康」を中心テーマに上記の4つの観点から課題研究・ゼミナール活動
探究Ⅲ	英語論文の作成・研究成果の動画発信を行い、国内外の関係機関(県庁・企業・海外大学)に提言
海外現地研修1・2	ミャンマー・ベトナム・タイ・インドネシアでのフィールドワーク
短期留学	台湾の高校へ短期交換留学をし、「食と健康」について共同研究
海外研修	オーストラリアの高校・大学で「食と健康」をテーマにスタディーツアー

・ICT環境整備

WEB 会議システムを利用し、海外の高校や大学(サテライトオフィス)と結び、「課題研究」に関する講義・ディスカッション。デジタルポートフォリオの活用。

②検証評価

- ・自己評価(質問紙)・ポートフォリオ評価
- ・ルーブリックによるパフォーマンス評価(研究論文・プレゼンテーション等)

(3) 必要となる教育課程の特例等

なし

⑧
-3
上記以外

(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価

①研究開発の内容・実施方法

「国際社会で通用する汎用的能力」(技能・スキル)の育成 講義や演習など

探究基礎		グローバル英語	
	KJ法による合意形成(宿泊研修)	I	スピーチ・スキット・ディベート
	新聞比較によるメディアリテラシー		イングリッシュキャンプ(宿泊研修)
	ディベートによる討論	II	英語サマリー作成
		III	英文読解とディスカッション

②検証評価

- ・自己評価(質問紙)・グローバル英語はGTECも活用
- ・ルーブリックによるパフォーマンス評価(レポート・口頭発表等)

(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等

なし

(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の取組内容・実施方法

①SGH生徒推進部による主体的・自治的活動

「活動体験ルーブリック」による自己評価・相互評価、ポートフォリオ評価で検証。

②留学推進体制の確立

オーストラリア州教育省と連携し、留学を身近に感じさせる海外研修。短期留学の実施。

③学校のグローバル化

SGH事業の研究成果を普通科へ還元。国際バカロレア(IB)の授業研究。台湾やオーストラリアの交流校と人的交流。「アドバンスプレースメントテスト」を含めた大学入試研究。

⑨その他
特記事項

ふりがな	みやざきけんりつみやざきおおみやこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	宮崎県立宮崎大宮高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:	80人	80人	人	人	人	人	人	150人
目標設定の考え方: 外部からのボランティア要請の積極的な受け入れ、国際ボランティア部やボランティア委員会の活性化を行う。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	3人	3人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: オーストラリアの海外研修で、海外大学や高校における留学時の生活を体験させ、海外での生活を身近に感じさせる。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	43%	42%	%	%	%	%	%	60%
目標設定の考え方: 国際的に活躍している研究者や企業の方と共同研究することで、国際的に活躍する将来像を抱かせる。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	2人	0人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 課題研究等の成果を各種コンテストに積極的に応募し、上位入賞を果たす。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	14%	16%	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 「グローバル英語」における英語活動、GTEC、TOEFL等を活用して、4技能をバランスよく伸ばしていく。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	26%	28%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 課題研究においてグローバルイシューに対する問題意識を高め、進学後もさらに研究を継続する。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人	人	人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 海外大学との共同研究、留学の推進、国際バカロレアをふまえた授業によって海外大学への進学意欲を高める。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: SGHの課題研究を通して、グローバル・リーダー育成に関係する専攻分野を希望する生徒を増加させる。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 課題研究をさらに発展・充実させるような意識付けをおこなうことで、留学・海外研修に行く卒業生を増加させる。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	80人
	目標設定の考え方: 課題研究に関するアジア諸国の現地研修10名とオーストラリア海外研修80名を実施する(重複あり)。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	80人
	目標設定の考え方: 課題研究において国内でのフィールドワークを実施する。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	1校	校	校	校	校	校	10校
	目標設定の考え方: 現在台湾の高校と課題研究の共同研究を始めたが、今後オーストラリアの高校やアジアの大学との連携を進める。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	10人	10人	人	人	人	人	人	80人
	目標設定の考え方: 講義や演習、ゼミナールで、宮崎大学、宮崎国際大学等の大学教員や学生に活動支援をいただく(8人×10回)。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	2人	2人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方: 講義や演習、ゼミナールで、県内企業、行政、NPO法人に活動支援をいただく(4人×10回)。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
	目標設定の考え方: 課題研究の成果をふまえ、模擬国連や科学甲子園等の各種コンテストで発表する。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	1人	1人	人	人	人	人	人	10人
	目標設定の考え方: 帰国・外国人生徒の積極的な受け入れを推進し、グローバル人材育成の環境整備を行う。							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回	回	回	回	回	回	4回
	目標設定の考え方: 研究指定2年目以降から研究成果を発表する。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
	目標設定の考え方: 課題研究の研究成果を発表する場とする。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)			1,240	1,240	1,240	1,240	1,240
SGH対象生徒数			80	160	240	240	240
SGH対象外生徒数			1160	1080	1000	1000	1000